

報道関係各位

三菱地所レジデンス株式会社
三菱地所コミュニティ株式会社

コロナ禍においてより一層高まる「自宅の備え」を考える ザ・パークハウス 横浜新子安ガーデンの防災訓練にてオンラインを活用 ～自然災害を在宅避難で乗り切れるマンションを目指して～

三菱地所レジデンス株式会社と三菱地所コミュニティ株式会社は、2020年9月27日(日)に、「ザ・パークハウス 横浜新子安ガーデン」(神奈川県横浜市神奈川区・総戸数 497 戸)にて初のオンラインによるプログラムを交えた防災訓練を実施しました。

防災訓練は、引き渡し以降今年で5年連続での開催となりますが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大により一堂に会することができないため、オンラインでのプログラムを交えて実施いたしました。「ザ・パークハウス 横浜新子安ガーデン」では、毎年、訓練の参加率が80%を超えており、訓練を通じて住民の防災意識を高めてまいりました。今年は防災訓練をやむなく断念するマンションも多い中、いつ起こるかわからない災害に対して継続して訓練を続けていきたいという思いから、オンラインを活用しての実施に踏み切ったものです。

当日は避難訓練と安否確認に加え「自宅の備え」をテーマとしたオンラインワークショップを実施しました。

過去の災害から避難所は大幅に足りなくなるとい実情を踏まえて、マンション内で助け合っ被災生活を乗り切る「在宅避難」を想定した訓練を実施してきましたが、昨今のコロナ禍においては、より一層避難所の収容人数が限られることから「自宅の備え」をテーマに、被災地の声を届ける防災ツール「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」を活用したオンラインワークショップを行いました。ワークショップでは、被災地で非常に困ったというトイレの備えについて考え、実際に参加をした方からは、凝固剤は備えていたが、量が不足していることに気がついたといった声がありました。また、水害への備えとしては「災害が起きた現場」の声からの学びを共有することで、参加者が自然災害を身近なものにとらえ、自宅での備えについて考えました。



▲オンライン訓練の様子

今後はオンラインによるプログラムを交えた訓練の実施の幅を広げ、オンラインを活用した多地点のマンションでの合同開催も見据えながら、更なる防災力の強化や、災害に強いまちづくりを目指していきます。

三菱地所グループは、サステナブルな社会の実現に向けて「三菱地所グループの Sustainable Development Goals 2030」を掲げており、「安全安心に配慮し災害に対応する強靱でしなやかなまちづくり」を進めています。三菱地所レジデンスと三菱地所コミュニティは、今後、防災への取り組みをより一層連携・協力して実施し、災害に強いまちづくりを推進してまいります。



<防災訓練の詳細>

日時：2020年9月27日（日）9:30～12:30

主催：ザ・パークハウス 横浜新子安ガーデン管理組合

内容：9:30～安否確認訓練

10:00～オンラインワークショップ

11:00～ブロック毎に避難訓練

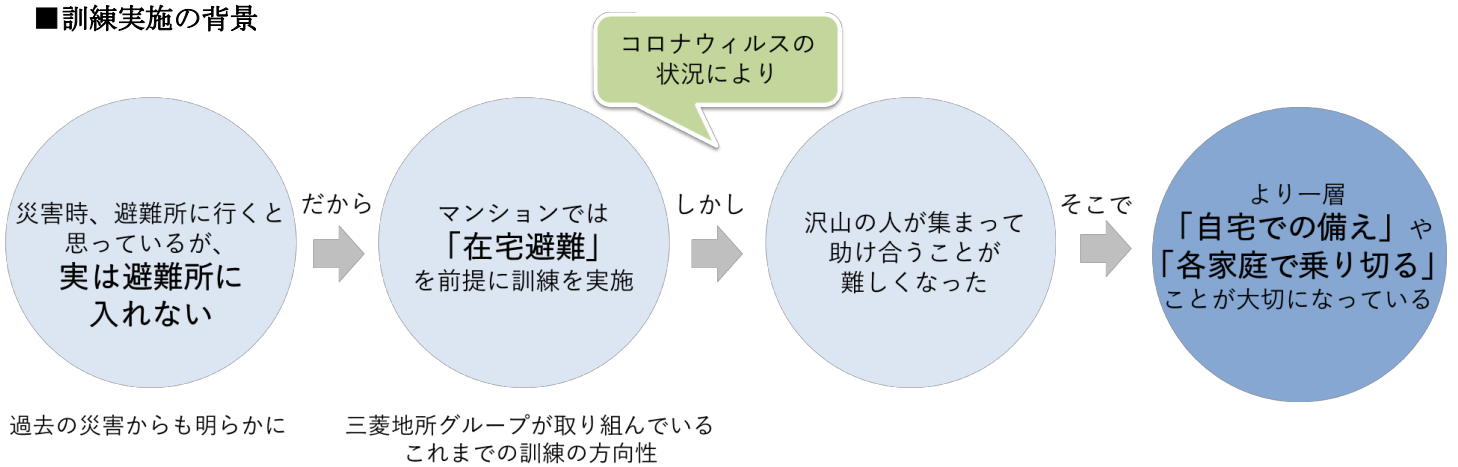
11:30～ブロック毎に避難訓練

12:00～ブロック毎に避難訓練

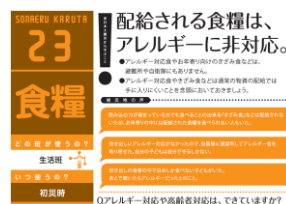
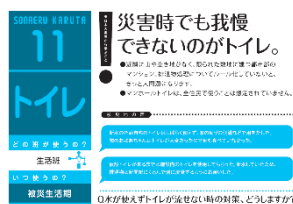
オンラインワークショップ参加者数：約100名

安否確認訓練参加率：89.5%（497世帯中445世帯）

■訓練実施の背景



■オンラインワークショップの内容



被災地のリアルを知り
気づきを得る

自分だけではなく、家族1人ひとりが必要となるものを一緒に考える



自分の生活をイメージして
実際に書く

行動につながるように、
家族の防災計画書をつくり、
家族で情報共有

■訓練の様子

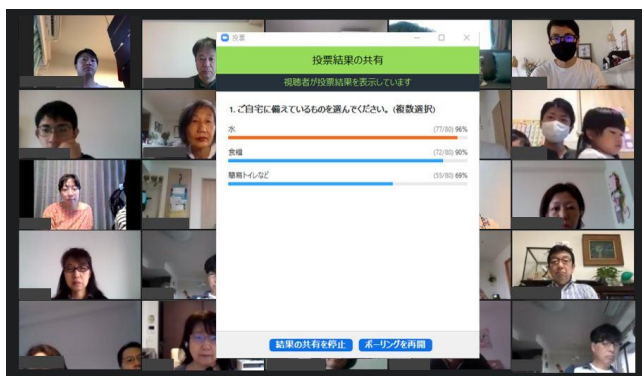
①安否確認

安否確認シートを住戸ごとの扉に貼り出し、あらかじめ定めた担当者が安否確認情報を収集しました。
また、安否確認シートが貼り出されていない住戸にはインターホンで呼びかけを行い、確認を行いました。



②オンラインワークショップ

オンラインツール Zoom を活用し、オンラインならではのチャット機能やアンケート機能を用いながら参加型のワークショップを実施。「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」で被災地の声を届けながら、自宅での備えを考えました。Zoom での参加が難しい方は、マンション 1F ラウンジにて参加しました。



③避難訓練

火災発生を想定し、密を避けるために3ブロックに分けて、敷地内の広場に避難する訓練を行いました。



■参加者の声

<オンライン活用による防災訓練の開催について>

- ・参加型のオンライン訓練だったので、理解しやすくなった。
- ・小さな子どももいるので、オンラインでのワークショップは参加しやすかった。
- ・オンラインの方が気軽に参加できる。コロナに関係なく、今後も是非続けてほしい。
- ・もともと防災意識が高い住民が多いが、今年を含め毎年開催することで、その水準をキープできていると感じている。

<オンラインワークショップについて>

- ・対面のワークショップよりも、活発な意見交換ができたと感じた。
- ・他の参加者の防災意識と自分を比較して考えることができた。
- ・Zoom の機能でアンケートの集計結果がすぐに出たり（%なども）、他の参加者の意見も見ることができて興味深かった。
- ・チャット機能を使って他の参加者の意見が聞けたので、「確かに！」と新しい発見があった。

<ワークショップの内容について>

- ・凝固剤は備えていたが、何日分を備えているのか・個数は足りているのかまで確認することがなかったので、今回の訓練で考えるきっかけになった。足りていなかったのでさっそく買おうと思う。
- ・お薬手帳やサプリメントを備えることは頭になかったので、気づきになった。
- ・今まで栄養の面は考えず食料を備蓄していたが、ビタミンを補える食料もしっかり備えようと思った。
- ・今までは身体を動かす訓練を中心に訓練を実施していたが、今回は「備え」について1時間じっくり考えることができたので、新しい気づきが沢山あった。
- ・コロナで自宅の食料備蓄などのイメージもつきやすくなっている中、ワークショップの内容（自宅での備え）もちょうど良かった。



■三菱地所グループの防災の取り組み

— 97年の想い：1923年の関東大震災からはじまる三菱地所グループ防災の歴史 —



三菱地所グループでは、1923年に発生した関東大震災以降、約90年にわたり大規模な防災訓練を実施しており、グループ全体で防災・減災に取り組んでいます。

写真は、関東大震災で丸の内に開設した臨時診療所。その壁には「ドナタデモ」と書かれています。この精神を受け継ぎ、マンション居住者に加え、世の中に役立つ防災活動を広く行っていきたいと考えました。

— 「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」：東日本大震災の声を届ける —

東日本大震災・熊本地震等の生の声を届けるために、実際に困ったことを「トイレ」・「食糧」・「情報」といった切り口で伝える防災ツール「そなえるカルタ」。

子どもと大人が家族を想定して考える防災ツール「そなえるドリル」。

自分や家族のことを実際に書き、大人と相談して答えを出す要素を取り入れ具体的な行動につなげます。

この「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」は、ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ上で「ドナタデモ」ダウンロードが可能です。

ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ

<http://www.mecsumai.com/bousai/>



— 三菱地所グループの防災倶楽部 —

三菱地所グループでは、防災訓練を積極的に実施・サポートしており、防災意識の向上や訓練の進化・深化を目的に三菱地所レジデンス社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を2014年10月に立ち上げました。防災倶楽部はマンション管理組合に対し新たな訓練メニューなどを提案しており、これまでに三菱地所コミュニティが管理するマンション91物件・24,664世帯を対象とした防災訓練をサポートしています。今後も災害に対し、迅速に対応できる体制構築を広く浸透させていくべく、防災力強化のための活動を行ってまいります。